

GUNMA
HOUSING
AWARD
2018

特別賞

住宅金融支援機構賞

高床の家

〈たかゆかのいえ〉

設計者 田村建築設計工房

施工者 内藤建設株式会社(専門工事会社代表)



CONCEPT

設計主旨

開放的な住宅と水害対策の二つの希望を、高床形式とすることで解決し家づくりをすすめた。基礎を高くすることで、床の高さが周囲と高低差が出る。高低差があることで互いの視線がずれ、建て主希望の大開口の木製サッシが可能な開放的な暮らしができるように計画した。薪ストーブやオリジナルキッチンを中心とした居間は、コミュニケーションを誘発し、家族のコミュニケーションが中心の空間となる。家族で過ごす時間が大切な一方で、個人としての時間も大切にしたい。個室にこもるのではなく、居間の中や連続した空間に書斎コーナーや畳コーナー、子ども室など様々な場所を設け、居場所の多様性を生み、家族とのつながりを感じながらも、個人の趣味や学習などを行うことができるように考慮した。構造材には建て主祖父の植林した杉やヒノキを使用している。適切な時期に伐採することで山は循環し、次世代につながっていく。間伐材は薪ストーブの燃料にも使用する。薪ストーブや太陽熱利用の温水器の採用など、カーボンニュートラルの家づ

くり・ライフスタイルの要望に対し、それらを採用するだけでなく、建物自体の断熱気密性能も高くすることで、燃費の良い少量のエネルギーで生活のできる建物となるように計画した。建物性能を上げる他にも、勾配天井の頂点に、床下への暖気リターンダクトを設け、暖気の循環をさせている。高気密高断熱の住宅はエネルギー消費を抑えるだけでなく、何より重要な建て主家族の健康的な生活につながる。

建て主には設計段階だけでなく、塗装工事や手洗い器、棚板の支保など家づくり全体に参加していただいている。家づくりへ参加することで家に愛着が生まれ、メンテナンスや保守管理への敷居が下がり、大切に住まわれることを期待している。木部塗装はメンテナンスが必要ため、作業を経験しておくとう気軽に塗り替えが出来る。愛着を持つことと、メンテナンスをしていくことで寿命の長い家につながり、地域に根差した建物となる。



REVIEW

講評

敷地内で完結するのではなく周囲を取り込んだ、開かれた「家」を実現したいとお施主様のコンセプトを設計者との話し合いを通じて実現させていったことを感じさせるお住まいです。

高床形式により周囲との高低差をだすことで、平屋でありながら周囲の視線を意識しない開放的な暮らしを実現されています。大開口の窓、軒、庇の調和で夏冬の日射コントロールを行い、室内での心地よさをつくりだすとともに、環境に配慮した省エネルギー化も実現されています。薪ストーブ、オリジナルキッチンを中心とした居間空間は、家族のコミュニケーションの「場」を大事にされるとともに、一方で個人のプライバシー空間もきちんと確保されています。「家」とともに家族が成長していく、というお施主様の想いが伝わってきます。構造材にお施主様のお祖父様が植林された木を用いることで、世代を超えた家族のつながりを日々感じられていることと思います。

お施主様が設計段階にとどまらず家づくりに参加され、ご家族の想いを随所に鏤めた素敵なお住まいとなっています。

